全農 JA全農いばらき

営農 News　令和 6 年 4 月 17 日　第 3137 号

突然の降雹や突風等被害への対応について
（果樹・普通作）

例年 5～6 月には大気が不安定となり、積乱雲の発達などで突発的に降雹や暴風雨害などが発生することがあります。この影響で、農作物に被害が発生した場合は、適切な対応が必要となり、軽度の場合でも、生育への影響、病害の発生などが懸念されます。

降雹、突風の事前予測・対策は難しいところですが、普段から災害に備えておくことが大切です。

下記を参考に適切な対策に努めてください。

なお、**県農業総合センターホームページ**(https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/cont/taisaku.html)**に、気象災害の技術対策が掲載されていますので、参考にしてください**。

1　露地赤ナシ、ブドウ（巨峰）、リンゴなど

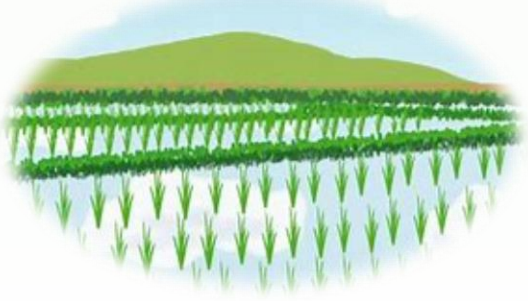
事前対策

・ほ場周辺に明渠を設けます。
・支柱やネットの強度を確認し、弱い部分は補強しておきましょう。
・棚面の随所に支柱による上方への突き上げと針金による下方への誘因を行い、上下動を抑えましょう。
・多目的防災網の固定ロープ・あおり止めの点検・補強を行いましょう。

事後対策

・果実や樹体への損傷をよく観察して防除対策を実施して下さい。
・果実への傷害は降雹後、１週間程度で判別が可能となるので、必要に応じて摘果作業を行ってください。
・樹体損傷の程度に応じて、被害果の摘除、太い枝の損傷部への塗布剤による保護などを行い、生育の回復に努めます。
・枝葉の損傷部より病気が発生しやすいので、**茨城県病害虫参考防除例に基づき、確実に薬剤防除を実施**します。
・年次により春先に突発的に発生するナシ疫病にも注意が必要で、発生したら薬剤防除（アリエッティ水和剤など）を行います。

2　水稲、麦



事前対策

・ほ場周辺に明渠を設けます。
・冠水後水稲では黄化萎縮病、白葉枯病が発生しやすくなっています。伝染源であるイネ科雑草（黄化萎縮病）やサヤヌカグサ類（白葉枯病）の除草を行うことが重要です。
（白葉枯病には、オリゼメート粒剤やルーチン粒剤等の予防散布が有効です。黄化萎縮病には防除薬剤はありません。）

事後対策

・冠水した圃場は、速やかな排水に努めます。
・水稲では排水後清水に入れ替えて下さい。
・**水稲では葉先が少しでも水面に出ていれば、被害が軽くなります。通常では 3～4 日程度の冠水であれば、分げつが遅れるものの、概ね生育が回復します。**
・除草剤を散布する場合は、活着を確認してから行うようにして下さい。
・麦では、圃場排水後、赤かび病の発生が多くなると予想される場合には、開花期から 10 日間くらいの防除適期に速やかに薬剤散布を実施します(営農 News 第 3131 号　https://www.zennoh.or.jp/ib/contents/make/einou/3131.pdf)

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
■ 営農 News はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040